

高度共通午前Ⅰ

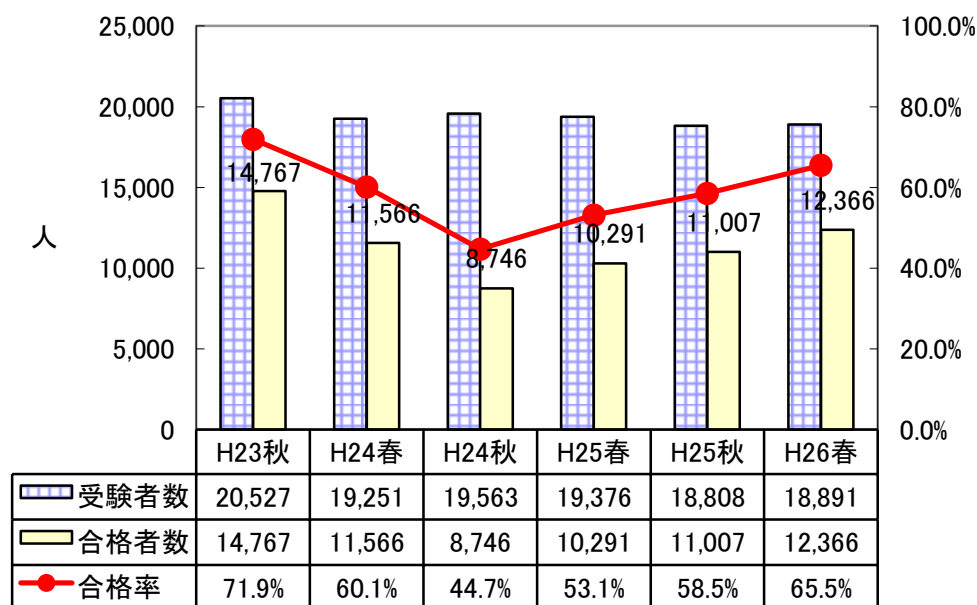
1. はじめに

1.1 総評

午前Ⅰ試験の出題傾向には変化は見られず，今回も応用情報技術者試験の午前問題 80 問から 30 問が抜粋された形で出題されていました。

また，問題の 6 割以上が過去問題の再出題でしたが，新規に作成された問題であっても，問題テーマそのものは，過去のいずれかの試験の午前問題または午前Ⅱ問題で出題済みのものが多く，目新しいテーマは二つ程度でした。ただ，解くための手順にやや時間のかかるものが多かったため，難易度は前回に比べると少し高いといえるでしょう。

1.2 受験者の推移



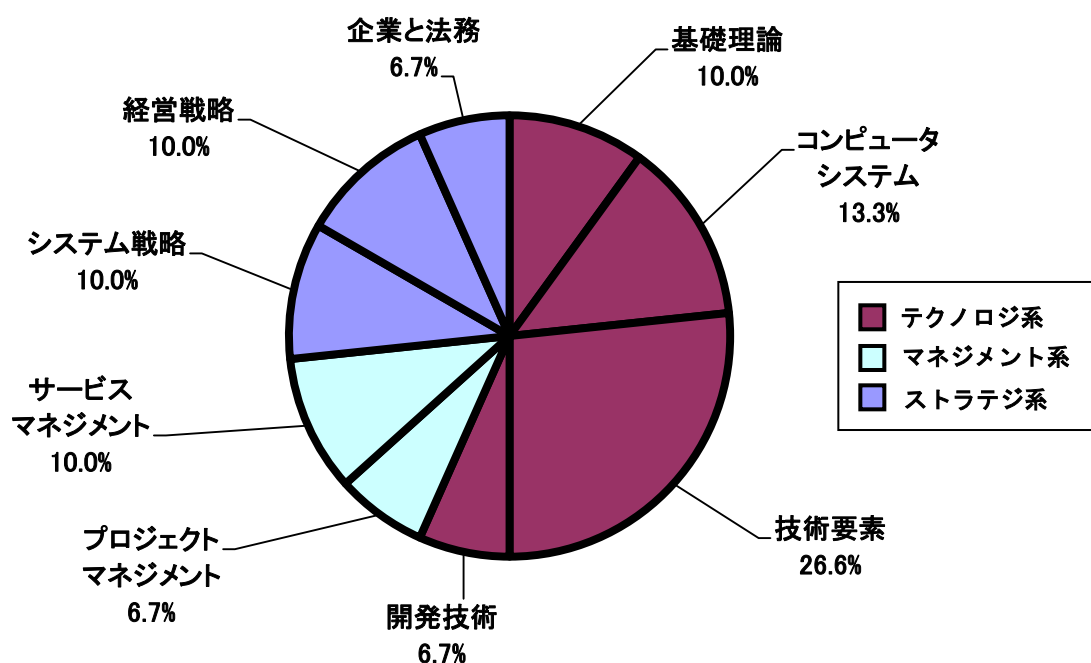
午前Ⅰ試験には免除制度があり，その条件を満たす受験者は，2 年間，午前Ⅰ試験の受験が免除されます。全高度区分の受験者のうち，午前Ⅰ試験免除制度がどの程度の割合で利用されるかによっても，午前Ⅰ試験の受験者数は変動するため，全高度区分の受験者数と午前Ⅰ試験の受験者数の増減は必ずしも一致しません。午前Ⅰ試験の免除率は，試験センターから正式な発表はありませんが，区分の受験者数から午前Ⅰ試験の受験者数を引いた人数をもとに計算することができます。H24 年春以降，高度区分全体の免除率は 6 割強で推移していましたが，前回は 57%程度に下がっていました。

2. 午前 I 問題の分析

2.1 問題テーマの特徴

午前 I 試験は、共通キャリア・スキルフレームワークのテクノロジー系、マネジメント系、ストラテジ系の 3 分野から出題されますが、その出題比率は前回の春試験と同じで、テクノロジー系の分野から 17 問、マネジメント系分野から 5 問、ストラテジ系分野から 8 問が出題されていました。出題範囲のほぼ全ての中分類から万遍なく出題されるという裾野の広い試験という特徴に変わりはありませんが、例外としてテクノロジー系のセキュリティについては、重点的に出題されています。テクノロジー系の大分類での内訳出題数をみますと、基礎理論 3 問、コンピュータシステム 4 問、技術要素 8 問、開発技術 2 問となっていますが、その技術要素では、半分の 4 問がセキュリティ分野から出題です。

分野	大分類	出題率	出題数
テクノロジー系	基礎理論	10.0%	3 問
	コンピュータシステム	13.3%	4 問
	技術要素	26.6%	8 問
	開発技術	6.7%	2 問
マネジメント系	プロジェクトマネジメント	6.7%	2 問
	サービスマネジメント	10.0%	3 問
ストラテジ系	システム戦略	10.0%	3 問
	経営戦略	10.0%	3 問
	企業と法務	6.7%	2 問



今回も 30 問のうちの 6 割ほどが過去問題の再出題でした。再出題問題のうちの 6 割強は、応用情報技術者試験やその前身のソフトウェア開発技術者試験の午前問題からの再出題ですが、基本情報技術者試験の午前問題や、プロジェクトマネージャ試験、情報セキュリティスペシャリスト試験、IT ストラテジスト試験といった高度区分の午前Ⅱ問題からも再出題されていました。

新規に作成された問題も、過去の午前Ⅰ試験やいずれかの試験の午前問題、あるいは午前Ⅱ問題で取り上げられたことのある問題テーマについて、新しい切り口から出題しているものが大半でした。目新しいテーマとしては、Linux カーネルやコア技術が出題されていました。

2.2 難易度の特徴

一般的に、計算問題や流れ図を解釈する問題は解答に時間がかかりますが、今回の午前Ⅰ試験ではこれらの手間のかかる問題が前半に含まれていることから、時間的にやや厳しい試験になっていたと思われます。ですので、今回の午前Ⅰ試験の全体的な難易度は、前回よりはやや難しかったと考えられます。24 年秋に午前Ⅰ試験の突破率が大きく下がって以降、前回までの午前Ⅰ試験の突破率は、徐々に上がり続けてきましたが、今回は 60～65% 程度になるのではないかと思います。

午前Ⅰ試験は技術レベル 3 までが出題され、高度試験の午前Ⅱ問題は技術レベル 4 までが出題範囲となっています。今回再出題された高度試験の午前Ⅱ問題は、いずれも技術レベル 3 以下の問題として出題されたものと思われます。

ただし、午前Ⅰ試験の難易度の感じ方は、受験者の専門分野やこれまでの経験によって異なります。システム開発に携わり、基本情報技術者試験、応用情報技術者試験、と段階的に受験してきた方にとっては、テクノロジー系の出題が多い午前Ⅰ試験をそれほど難しいとは感じないはずです。一方、マネジメントを専門にし、最初から高度試験を受験した方にとっては、馴染みのないテーマが多く出題され、難しく感じるかもしれません。なお、ここでは、問題ごとの難易度評価は、応用情報技術者試験の午前問題と共通化しています。

2.3 問題テーマ難易度一覧表

問	テーマ	難易度
1	カルノー図	B
2	待ち行列論	B
3	グラフの最短距離	A
4	キャッシュの書込み方式	B
5	稼働率	B
6	Linux カーネル	B
7	フリップフロップ	B
8	コードの桁数	B
9	関数従属性	B
10	UDP	A
11	サブネットマスク	B
12	SMTP-AUTH	B
13	DNS キャッシュポイズニング	B
14	Web アプリケーションにおける脅威と対策	B
15	無線 LAN のセキュリティ	A
16	ブラックボックステスト	A
17	ソフトウェアの著作権	C
18	構成管理の対象項目	B
19	ファストトラッキング	B
20	SLA に記載する内容	A
21	目標復旧時点	C
22	在庫データの網羅性のチェックポイント	B
23	バランススコアカード	A
24	SOA	B
25	契約形態と開発フェーズ	B
26	SCM	A
27	コア技術	B
28	CE（コンカレントエンジニアリング）	B
29	図式化技法	B
30	不正競争防止法	B

注）難易度は3段階評価で、Cが難、Aが易を意味する。

3. 今後の対策

3.1 今後の対策

午前Ⅰ試験の出題分野比率は、ほぼ固定されています。また、技術レベル 3 までの問題が出題される試験ですので、問題内容の技術的な難易度レベルにも大きな変化はありません。幅広い試験範囲の中から満遍なく出題されますので、時間配分に注意して、得意分野の問題を確実に得点に結び付けることを心がければ、合格ラインを超えることは決して難しくはありません。

ただし、「セキュリティ」の 4 問をはじめとして、「基礎理論」「コンピュータシステム」「技術要素」「開発技術」などのテクノロジー系分野の出題割合が半数以上を占めますから、テクノロジー系が苦手な方は対策をとる必要があります。その場合も、午前Ⅰ試験対策は「短時間で効率良く」を心がけてください。なぜならば、高度試験は午前Ⅱ、午後Ⅰ、午後Ⅱ試験が受験区分の専門試験にあたりますので、これらの専門試験への対策がより重要となるからです。試験までの限られた準備期間の中で、午前Ⅰ試験の対策に多くの時間をかけるのは得策とはいえません。できるだけ専門試験対策のほうに学習時間を使ってほしいと思います。

具体的には、これまでに出题された午前Ⅰ問題を解いて、知識を確認する学習を中心に行うとよいでしょう。このとき、正解選択肢を確認するだけでなく、解説もしっかりと読んで、正解や不正解の選択肢で押さえるべき知識を再確認するようにしましょう。そうすると、同じ問題テーマについて新しい切り口で出题された場合や、選択肢の表現が異なっていたような場合にも対応がとれるはずです。また、正解できなかった問題テーマについては、テキストに戻って知識をインプットすることも大切です。

毎回、応用情報技術者試験の午前問題からの抜粋問題が出题されており、過去問題も応用情報技術者試験の問題から選ばれることの多い試験です。今回も、過去問題の 6 割弱が、古くは H18 年秋のソフトウェア開発技術者試験から、新しいところでは H25 年春の応用情報技術者試験まで、あまり特定の年度に偏ることなく再出题されています。過去問題の学習では、午前Ⅰ試験対策に不安が残る場合には、午前Ⅰ試験だけでなく応用情報技術者試験の午前問題まで範囲を広げて対策をとるようにするとよいでしょう。